

7

日本バプテスト連盟ホームレス支援特別委員会 ニュースレター



霊に導かれて

大谷心基 (京都教会)

5月27日の朝日新聞朝刊一面にひとつのデータが報告されました。刑務所からの満期釈放者の4割が帰る場所がないという調査結果です。30年前には9%だったとのことで、今、帰るべき「ホーム」の喪失している「ホームレス」問題は、今を生きる私たちの中心課題であることがわかります。またこの報道を見て、私はマタイの25章を思い起こしました。受刑者を面会し、宿がない者を泊めるということが、主イエスにしたことなのだ！という内容の部分です。こういう課題に対して、何の聖書解釈も必要なく、私たちが聖書の言を信じる者として応えることが、それこそ恵みであることを教えてくれます。しかし私たちは正直に反省するほどに、「ホームレス」に応えることが教会やキリスト者の活動になりづらいことを知ります。私たちを活動させずに教会内部に閉じ込める背景には何があるのでしょうか？

そのひとつを少し考えてみました。それは霊の導きについてです。どうも私たちは霊を心に閉じ込めていないでしょうか。ヨハネ福音書3章には、肉から生まれたものは肉であり、霊から生まれたものは霊であって、私たちは霊から生まれることで新たに生まれるとありますが、この場合の肉と霊を考える時に、体と心という感覚で、霊を内面の事柄として考えることが多い気がするの私だけでしょうか。心というものが発見されて以来、霊を内面化する傾向が強いような気がします。でも3章8節には次のようにも書かれています。「風は思いのままに吹く。あなたはその音を

聞いても、それがどこから来て、どこへ行くのかわからない。霊から生まれた者も皆そのとおりである」。そもそもヘブライ語では霊と風とは同じ語ですが、霊に導かれるとは、風とその音に導かれるようなものであるということは意味深いと思います。まず風は体の外側に在るものです。ここで、霊は心の中ではなく、体の外に広がるということがわかります。さらに風は地球上の隅々まで到達するでしょうから、霊は、地球の隅々の、それも人間がかかわろうとしない困窮のあるところにまで、私たちを導くということではないでしょうか。また音というのは時間と共に在るものです。音は過去から未来へつながることで認識されるものです。つまり音は歴史です。さらに音の成分は振動ですから、音は歴史の振動とも言えるのではないのでしょうか。これはすなわち、歴史の隅々まで、これまた、人間が見ようとするような困窮の歴史にまで霊が行き届き、霊がそこで情熱を震わせるからこそ、私たちはその霊に導かれるということではないのでしょうか。

私たちが新しく生まれるということは、実は、霊によって地と歴史の隅々にまで導かれるというそういう生命へと生まれ変わるということでありましょう。さらにいうと、「どこから来てどこに行くのか」は知るよしもなく、ただ端的に地と歴史の困窮に出会ったゆえに出会うということを繰り返すのみが、霊に導かれる人生の恵みではないのでしょうか。ぜひとも霊に導かれつつ、だからこそマタイ25章にある生き様が求められるという、そういう活動を担うことができたなら、次代の教会はまさに本当の意味で活き活きと生きると思ってもいます。

まずは、出会うところから。ぜひ一緒に。

沖縄「夜回り」～Sさんとの出会いを通して～

岡田有右（那覇新都心キリスト伝道所）

沖縄「夜回り」は、何とか続いているという状況です。1月に沖縄県のホームレス人数調査に那覇市の調査で参加協力しました。2003年の調査に比べ9人増の167人との発表がありました。昼の調査であり、行政が控えめに数えているので、沖縄県には200人以上が野宿に追い込まれていると思われます。

本土から沖縄にやって来て野宿を余儀なくされている人がいます。埼玉県からのSさん（45歳）は、4年間の野宿生活の後、この4月に本人の希望で季節労働者として本土に帰って行きました。那覇空港では仲間から「飛行機の中で食べて」と黒糖を買っていました。Sさんは「今度は自立して、沖縄でお世話になった方々に土産を持って来たい」と話し、旅立って行きました。

Uさん（75歳）との出会いがありました。彼はホームレス生活が10年以上になります。「対馬丸記念館」が建っている那覇市の公園を休み場としています。彼は沖縄戦の時に宮崎に学童疎開をしました。「対馬丸」に乗る予定でしたが隣の「なじ丸」に乗って九州に向かいました。「対馬丸」は米潜水艦の魚雷攻撃を受けて沈没、学童を含む1484人が海底深く命を落としました。戦争が終わり、彼は宮崎から沖縄に帰りました。しかし、自宅はなく、送り出してくれた家族の姿は無かったと静かに話してくれました。Uさんは高齢化に伴い歩行が難しくなり、日々の食事を確保することが困難となり、体力の衰えが顕著になりました。彼の口癖は「大丈夫」。『大丈夫？』と聞くとしんどくても彼は「大丈夫」と返事をします。彼は頑張ると言うのです。声をかけました、「入院しよう」。その時、いつものように「大丈夫」と答えずに、首を立てに振りしました。『救急車を呼ぶよ』と言うと、彼は「もう1日待って欲しい」と言います。理由はひげを剃って着替えをしたいから。個人の尊厳とプライドの大切さを教えられます。翌日119通報をしました。その前に約束しました。『救急車が来た時に大丈夫と答えたらいかんよ』。彼は「分かった」。到着した救急隊員がUさんに『大丈夫か』と聞きました。彼は「うん大丈夫」。私は『大丈夫やあらへん。もう限界や』と話しました。彼は2ヶ月間の入院後退

院し、高齢者アパートで生活し、デイサービスに通うのを楽しみにしています。

学童疎開船「対馬丸」と共に那覇港を出たUさんが、「対馬丸記念館」が建つ公園で休んでいました。何かを守り続けるかのように。今沖縄は『日米安保条約』の最前線として基地の島にされています。被害の島から加害の島にされています。新基地建設の出来上がり次第で政府から自治体にお金が出るという出来高払い方式の『米軍再編推進法案』が議会で可決承認されました。危険で古くなった普天間基地を返還し、沖縄の辺野古沖に最新鋭の埋め立て基地を造ることを目的としています。沖縄県民同士をお互いに対立させ、お金で心を買おうとする東京の法律です。また、高校教科書の検定意見で「沖縄戦の集団自決から日本軍の強制」が削除されました。沖縄が期待し、希望を託して本土復帰した平和憲法が改定され、経済のグローバル化の中、米軍に追随して再び戦争への道を歩もうとしています。水深870メートルの海底に眠る「対馬丸」の子どもたちは、語りたいたことがいっぱいあるのだろう。声を聴いて欲しい。生き残られたUさんは体を張って私に語ってくれています。



「ゴーイングホーム」!

谷本仰（南小倉教会）

ホームレスエイドCD「ゴーイング・ホーム」が完成しました！ヴォーカルにギター、マンドリン、ヴァイオリン、アコーディオン、ドラムス、パーカッション、ベース、キーボード、ピアノ…。北九州・福岡のミュージシャンたち12人がぼくの呼びかけに応え手弁当での協力を快く引き受けてくれました。

「世界は素敵 What a wonderful world」「生活の柄」「見上げてごらん夜の星を」「やぎさんゆうびん～函車」「ひょっこりひょうたん島」「明日ハ晴レカナ、曇リカナ」「バリ野郎」「やつらの足音のバラード」「平和に生きる権利」「満月の夕」「スタンド・バイ・ミー」「明日があるさ」「ゴーイング・ホーム」。どれもどこか懐かしさや温もりを感じさせるカバー曲。いずれもどこか必ず「ホームレス支援」というテーマとつながる曲。

2006年の秋から録音が進められ、タイトル曲「ゴーイング・ホーム」が12月25日、クリスマスに収録されました。ドボルザークの交響曲第9番「新世界より」第2楽章の主題をモチーフにした「家路」を、ヴァイオリンとベースのデュオ演奏で収録し、全レコーディングを終えました。

ジャケット・ブックレットのためにすてきな切り絵を何点も仕上げたのはイラストレーターのうどのあすかさん（南小倉バプテスト教会員）。ブックレットには全曲の歌詞とそれぞれの解説文が載りました。



制作費用は、制作協力者有志からの出資金と、カンパによってまかなわれました。CDの制作と販売は、「ホームレスエイドCD『ゴーイング・ホーム』制作委員会」が担い、販売収益をとりまとめ、北九州ホームレス支援機構に全額を寄付します。

このCDがホームレスへの、そして支援者への理解と共感につながることを願っています。「明日はわが身」。弱者の切り捨てがますます加速する今、ホームレスの存在は他人事ではありません。

しかしそれ以前に、ホームレスもそうでない者も同じ人間。寒さも、空腹も、みんなどこかで体験したことがあるはず。そして、居場所のない寂しさや孤独の哀しみは、誰しもが味わったことがあるはず。みんな、家のあるなしに関わらず、居場所を求め続ける「ホームレス」なのかもしれません。今、この「私」が、ホームレスと同じ思いと現実を抱え、同じ祈りを共有しているのだからです。

ぜひ買ってください。聴いてください。じっくり眺め、読んでください。そしてどうぞ、一緒に祈ってくださいますように。

「このCDによせて」

おやじさんは、長年高速の高架下で暮らしていた。やっとの思いで支援住宅に入居。平穏な暮らしが始まったのもつかの間、残された時間はわずかしかなかった。さびしい葬儀だった。家族は誰も来なかった。

おやじさんそっくりの男性が訪ねてこられたのは、それから三日後のことだった。「兄ちゃん家に帰ろう……」。ひと言いって遺骨を抱きしめた弟。「家路」につく二人を見送った。涙があふれた。

人は生きるにしても、死ぬるにしても、このひと言を必要としている。「ゴーイング・ホーム」。

この度谷本仰さんはじめ多くのミュージシャン、スタッフによってホームレス支援CDが製作された。「ゴーイング・ホーム」と銘打たれたこのアルバムは、少しせつなく、愛に満ち、私たちを勇気づけてくれる。そして、僕らを「家路」へと向かわせる。もし、ないなら「家（ホーム）」を創ろうと呼びかける。

なお多くの人々が路上で生きている。彼らに聞かせたい。「一緒に帰ろう」と呼びかけたい。いのちの歌が私たちを結びつけ、新たなホームレス支援の輪が広がる。そんなアルバムの完成を心から感謝し喜ぶ。

路上に生きるすべての仲間たちと、すでに死んでいったおやじさんたちに代わり心からこう申し上げたい。「どうもありがとう。ぼくたちきっと家に帰ります」。

NPO法人北九州ホームレス支援機構
理事長 奥田知志(東八幡キリスト教会牧師)



CDに関するお問合せ、
購入申し込みは・・・
電話093-653-0779
北九州ホームレス支援機構
事務所内・ホームレスエイド
CD「ゴーイング・ホーム」
制作委員会まで。

CD「ゴーイング・ホーム」を聴いて

麦野達一（相模中央教会）

北九州で牧師をしておられる谷本仰さんがCDを出した。でも1人で作ったものではないらしい。普段活動しているタンゴバンドの3人だけで作ったものでもないらしい。タイトルには「谷本仰 & Friends Play Standards for the Homeless」とある。そう、このアルバムはホームレス支援のために、呼びかけに応えた「仲間たち」が作り上げたCDである。谷本さんは牧師である。当然ラインナップには賛美歌がずらっと並ぶのかと思ったが、違った。賛美歌は1曲もない。いわゆる信仰の歌もない。そこに並ぶのは、ひたすら「いのち」を愛おしみ、人生のつらさ、楽しさ、不思議さを歌った歌だ。しかし信仰者が神から与えられた「いのち」を意識して歌うとき、不思議とそれは信仰の歌となる。ジャンルはというと古いアメリカンスタンダード、60年代フォーク、童謡、歌謡曲、シャンソン（?）、アニメソング、クラシックなどなど、やや時代的偏りは感じるものの（ミュージシャンの年齢がわかる?）、バラエティ豊かな内容だ。

このCDを聴いて最初に感じたこと。「へー、谷本先生って歌も歌うんだ」。私にとって谷本さんの印象は型破りでジャンルレスなバイオリニストだったので、アルバム全体に彼の歌声が聴かれたのは少々意外だった。その谷本さんの歌声だが、聴いたことがある人は知っていると思うが、「シルクのようになめらかな美声」では決してない。むしろ「あら布のようにざらついたダミ声（失礼!）」である。しかし温かいのである。彼の歌声には聴く人に対する、そしてホームレスの人々に対する愛情が込められている。だから聴いていて安心する。勇気づけられる。「よし、俺もいっちゃってやるか!」という気にさせられる。それも無理矢理背中を押されるような感じではなく、自分から自然と一步を踏み出すような感じで。

演奏自体のクオリティは高い。谷本さんをはじめ集まったミュージシャン達のアイデアが満載である。歌詞を書き換えたり、書き加えた曲もある。オリジナル曲は1曲もないが、もうすでに彼らの歌になっている。編成も歌とピアノのシンプルな物からフルバンドにコーラス隊というにぎやかな物までこちらもバラエティ豊かだ。この文章を書くにあたって何度も何度もCDを聴いた。ある時は自宅のステレオで、ある時は車の中で、そしてこの原稿を書いている今は牧師室のラジカセで。そして気付いたことがある。このCD、ちょっとボリュームを大きめにした方が楽しめる。楽器や声の生の音がよりダイレクトに伝わってくる。そして思われる、「そろそろ家に帰ろうかな」。このCDが多くの人に「ホーム」を提供する手助けとなることを願って止まない。



ホームレス支援教会一覧

当委員会が把握しているホームレス支援を定期的に行っている地区と教会、支援者が所属している教会は以下の通りです。活動の問い合わせ教会のみ電話番号を記しました。当委員会が把握できていない情報、「ここでもやっているよ」「うちでもやっているのだから載せてほしい」という情報がありましたら、ぜひ、連盟事務局気付、ホームレス委員会あてご一報くだされば幸いです。尚、ここに記していない教会・伝道所以外にも、献金や物資献品などを通して支援活動をささえてくださっている教会・伝道所が多くあります。皆様の関心とお祈りを感謝いたします。

【市川地区】

日本バプテスト連盟市川八幡教会
047-332-5197

日本バプテスト連盟市川大野教会
日本バプテスト浦和キリスト教会

【藤沢地区】

藤沢バプテスト教会
0466-23-1088

【平塚地区】

平塚バプテスト教会
0463-33-2320

【相模地区】

日本バプテスト相模中央キリスト教会
046-274-3708

【岐阜地区】

岐阜バプテスト教会
058-265-0881
愛知新生キリスト教会

【京都地区】

日本バプテスト京都教会
075-231-1351

【平野地区】

平野バプテスト教会
06-6708-5852
日本バプテスト連盟シオンの丘教会

【兵庫地区】

日本バプテスト連盟浜甲子園教会
0798-41-5300
宝塚バプテスト教会

【兵庫地区 続き】

尼崎バプテスト教会
神戸バプテスト教会
神戸西バプテスト教会
神戸伊川キリスト教会

【香川地区】

日本バプテスト連盟恵キリスト教会
087-861-0523

【北九州地区】

日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会
093-651-6669
南小倉バプテスト教会
日本バプテストシオン山教会
若松バプテスト教会
日本バプテスト枝光キリスト教会

【福岡地区】

日本バプテスト福岡基督教会
092-741-6256
福岡西部バプテスト教会
バプテスト東福岡教会
平尾バプテスト教会
長住バプテスト教会
日本バプテスト連盟宇美キリスト教会

【久留米地区】

日本バプテスト連盟久留米荒木教会
0942-27-0116
日本バプテスト連盟久留米教会

【沖縄地区】

日本バプテスト連盟那覇新都心教会
098-942-4775

もうお読みになりましたか？

「ホームレス支援に関するシンポジウム報告書2003年」（2003年9月発行）
「ホームレス支援に関するシンポジウム報告集2005年」（2005年6月発行）

残部僅少です。お入用の方は、連盟事務局内ホームレス支援特別委員会、または上記の支援教会にお問合せください。
一冊500円のカンパをお願いしています。



発行：さいたま市南区南浦和1-2-4 日本バプテスト連盟内 ホームレス支援特別委員会 委員長 大谷心基